

しなののうた

境内の一隅に咲く山茶花はあかあか燃えて痛み癒さる



杉田小百合

しなののうた

病みあがる老女に会いて念仏を唱える声の憐れみさそう

杉田小百合



しなののうた

惨状の深きを知りてざつくりと心えぐられ立ち尽くしたり

l. NI

杉田小百合

しなののうた

山門をくぐれば石の灯ろうが軒並み倒れ目を覆いたし

杉田小百合



しなののうた

善光寺の地下を走るか活断層あたりの屋根の瓦とび散る



杉田小百合